

クルマシダ

Asplenium wrightii

チャセンシダ科

伊豆諸島

EN

環境省

【形態・生態】

常緑性シダ。根茎は短く、林床に生育する。葉身は長さ 30 ～ 80cm。コウザキシダとの推定雑種であるハヤマシダは、今のところ伊豆諸島では発見されていない。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州、四国、九州、南西諸島（沖縄本島以北）；東アジア

【伊豆諸島における生育環境】

伊豆諸島南部でやや湿った林床に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

樹林の伐採の影響を受ける可能性がある。

【関連文献】

Jotani, Y. & H. Ohba, 1970; 岩槻邦男, 1992.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	1	1	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

D



（執筆者：海老原淳）

オサシダ

Blechnum amabile

シシガシラ科

伊豆諸島

EN

環境省

【形態・生態】

常緑性シダ。根茎は短く這い、葉を叢生させる。林縁などのやや日当たりの良い岩上や崖に生育する。シシガシラに似るが、本種は葉柄基部の鱗片が幅広く、卵状披針型であることによって区別できる。栄養葉の葉身は長さ約 20cm。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州、四国、九州、南西諸島（屋久島）

【伊豆諸島における生育環境】

やや日当たりの良い崖などに生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

現在の自生地では、生存に対する脅威は特段ないと考えられる。

【関連文献】

岩槻邦男, 1992.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	1	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	1	0	0

判定基準

E+ACD



© 七島花の会

（執筆者：海老原淳）

ヒロハアツイタ

Elaphoglossum tosaense

ツルキジノオ科

伊豆諸島

CR

環境省

VU

【形態・生態】

常緑性シダ。樹幹や岩に着生し、根茎は短く這う。葉身の長さは5～15cm。葉縁が透明の膜状になる点や根茎の鱗片が披針形で細いことなどで、アツイタと区別が可能である。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州、四国、九州、南西諸島（屋久島）

【伊豆諸島における生育環境】

空中湿度の高い林床で樹幹や岩などに着生する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

愛好家による採取や、樹林の伐採による空中湿度の低下が脅威となりうる。

【関連文献】

岩槻邦男, 1992.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
4	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	2	0	0

判定基準

ACD



(執筆: 海老原淳)

アツイタ

Elaphoglossum yoshinagae

ツルキジノオ科

伊豆諸島

CR

環境省

VU

【形態・生態】

常緑性シダ。樹幹や岩に着生し、根茎は短く這う。葉身は長さ10～30cm。葉縁に透明の膜がない点や根茎の鱗片が卵形で幅広いことなどで、ヒロハアツイタと区別が可能である。

【分布の概要】

伊豆諸島、小笠原諸島、本州（紀伊半島）、四国、九州、南西諸島；東アジア、東南アジア

【伊豆諸島における生育環境】

空中湿度の高い林床で樹幹や岩などに着生する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

愛好家による採取や、樹林の伐採による空中湿度の低下が脅威となりうる。

【関連文献】

岩槻邦男, 1992.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
2	1	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	2	0	0

判定基準

ACD



(執筆: 海老原淳)

ハチジョウカナワラビ ※備考 (p. 213)

Arachniodes davalliiformis

オシダ科

伊豆諸島

NT

環境省

NT

【形態・生態】

常緑性シダ。根茎は短く這い、林床に生育する。葉身は長さ 15 ～ 30cm。全体としてコバノカナワラビに似るが、葉の先端が頂羽片状になり、孢子葉は栄養葉よりもやや小型になる。伊豆諸島南部ではコバノカナワラビと置き換わる格好で分布している。

【分布の概要】

伊豆諸島

【伊豆諸島における生育環境】

常緑樹林の林床斜面に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地では十分な個体数が見られ、繁殖力も強いことを考慮すると、絶滅のおそれは小さい。伊豆諸島南部の固有種とされるが、コバノカナワラビとの関係も含めて詳細な研究が必要である。また、ホソバカナワラビとの推定雑種も知られる。

【関連文献】

中池敏之・山本明, 1997.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	1	1	1
0	0	0	1	1	4

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	1	0

判定基準

協議による



(執筆: 海老原淳)

ミドリカナワラビ

Arachniodes nipponica

オシダ科

伊豆諸島

CR

環境省

【形態・生態】

常緑性シダ。根茎は匍匐する。葉身は長さ 40 ～ 60cm。やや湿った林床に生育する。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州、四国、九州

【伊豆諸島における生育環境】

不明である。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

現在の生育状況については情報が得られていない。八丈島に生育するハチジョウカナワラビとホソバカナワラビの推定雑種の誤認の可能性が考えられる(菊池健氏私信)ことから、分布や生育の状況を確認することが望まれる。

【関連文献】

岩槻邦男, 1992.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	1	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

D



©七島花の会

(執筆: 海老原淳)

ヤブソテツ

Cyrtomium fortunei

オシダ科

伊豆諸島

DD

環境省

【形態・生態】

常緑性シダ。根茎は塊状で、葉を叢生させる。地上生で、やや明るい林縁などを好んで生育する。葉身の長さは最大80cm程度。無配生殖種である本種とその近縁種（テリハヤブソテツ、ヤマヤブソテツなど）の実体は未だ十分に解明されておらず、今後の研究を要する。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州、四国、九州

【伊豆諸島における生育環境】

不明である。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

大島に分布するという情報はあが、他種の誤認である可能性も含めて、分布を再確認する必要がある。

【関連文献】

岩槻邦男, 1992.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による



(執筆: 海老原淳)

ミサキカグマ

Dryopteris chinensis

オシダ科

伊豆諸島

DD

環境省

【形態・生態】

夏緑性シダ。根茎は短く這う。地上生で、林下や林縁の斜面などに生育する。葉身は長さ15～30cm。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州、四国、九州；東アジア、東南アジア

【伊豆諸島における生育環境】

不明である。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

新島に分布するという情報はあが、他種の誤認である可能性も含めて、分布を再確認する必要がある。

【関連文献】

岩槻邦男, 1992.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による



(執筆: 海老原淳)

ツクシイワヘゴ ※備考 (p. 213)

Dryopteris commixta

オシダ科

伊豆諸島

CR

環境省

【形態・生態】

常緑性シダ。根茎は塊状で、やや暗い林床などで、葉を叢生させる。葉身は長さ 40 ～ 80cm。同様に 1 回羽状の葉を叢生させる種として、イワヘゴやオオクジャクシダなどがあるが、伊豆諸島には知られていない。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州、四国、九州

【伊豆諸島における生育環境】

伊豆諸島での生育環境についての情報は無い。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

1 箇所からのみ記録されているが、旧火口内のため人為的な影響を受ける可能性は小さい。ただし集団が小さい場合は消滅する（あるいは既に消滅している）可能性がある。

【関連文献】

岩槻邦男, 1992.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による

No image

(執筆: 海老原淳)

イヌタマシダ

Dryopteris hayatae

オシダ科

伊豆諸島

CR

環境省

【形態・生態】

常緑性シダ。根茎は塊状。林縁や岩上などに生育する。葉身は長さ 15 ～ 35(～ 60)cm。ナガバノイタチシダに似るが、やや小型で包膜の縁が裂けることで区別できる。

【分布の概要】

伊豆諸島、四国、九州、南西諸島; 台湾

【伊豆諸島における生育環境】

日当たりの悪い林下の崖地などに生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

特に大きな脅威は存在しないと考えられるが、元々伊豆諸島では個体数が限られるため、現状を正確に把握しておく必要がある。

【関連文献】

岩槻邦男, 1992.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	1	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	1	0	0

判定基準

E+ACD



(執筆: 海老原淳)

ヌカイトチシダモドキ

Dryopteris indusiata

オシダ科

伊豆諸島



環境省

【形態・生態】

常緑性シダ。根茎は塊状。林床に生育する。葉身は長さ 20 ～ 40cm。羽片が中軸に対してほぼ直角に出る傾向がある。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州、四国、九州、南西諸島

【伊豆諸島における生育環境】

不明である。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

現在の生育状況については情報が得られていない。伊豆諸島産の本種と同定された植物は、最下羽片の下向き第 1 小羽片はほとんど切れ込まず、小型であることからキノクニベニシダ *D. kinokuniensis* の誤認である可能性が高い。分布や生育の状況を確認することが望まれる。

【関連文献】

山本明・中池敏之, 1983; 岩槻邦男, 1992.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による



(執筆: 海老原淳)

ギフベニシダ

Dryopteris kinkiensis

オシダ科

伊豆諸島



環境省

【形態・生態】

常緑性シダ。根茎は短く、塊状。岩の隙間や石垣など、やや人工的な環境に生育することが多い。葉身は長さ 30 ～ 60cm。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州(宮城、千葉以西)、四国、九州; 朝鮮半島、中国

【伊豆諸島における生育環境】

不明である。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

新島に分布するという情報はあが、他種の誤認である可能性も含めて、分布を再確認する必要がある。

【関連文献】

岩槻邦男, 1992.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による



(執筆: 海老原淳)

ヒメイタチシダ

Dryopteris sacrosancta

オシダ科

伊豆諸島

DD

環境省

【形態・生態】

常緑性シダ。根茎は短く、塊状。やや乾いた林縁の崖や岩上などに生育する。葉身の長さは最大 50cm 程度。なお、日本のヒメイタチシダは、真のヒメイタチシダとリュウトウイタチシダの 2 種に分けるべきという見解もある。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州（東南北部以西）、四国、九州；朝鮮半島、中国

【伊豆諸島における生育環境】

不明である。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

新島に分布するという情報はあが、他種の誤認である可能性も含めて、分布を再確認する必要がある。

【関連文献】

岩槻邦男，1992；芹沢俊介，2009。

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による



(執筆者：海老原淳)

オリヅルシダ

Polystichum lepidocaulon

オシダ科

伊豆諸島

VU

環境省

【形態・生態】

常緑性シダ。根茎は短く、塊状。土の露出した崖や岩上を好む。葉身は長さ 20 ～ 40cm。葉の先端に無性芽をつけ、栄養繁殖する。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州、四国、九州、南西諸島（トカラ列島以北）；東アジア

【伊豆諸島における生育環境】

やや乾いた斜面や崖に生育し、葉の先端につけた無性芽で栄養繁殖している。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

特段の脅威はないと考えられるが、自生地の開発などには注意が必要である。

【関連文献】

岩槻邦男，1992。

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
1	1	1	1	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

D



(執筆者：海老原淳)

ヒメカナワラビ、キヨズミシダ ※備考 (p.213)

Polystichum tsussimense

オシダ科

伊豆諸島

CR

環境省

【形態・生態】

常緑性シダ。根茎は短く這う。崖や斜面などに生育する。葉身の長さは最大 60cm 程度。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州、四国、九州；東アジア、東南アジア

【伊豆諸島における生育環境】

1960 年代に採集された標本はあるものの、近年生育は確認されていない。生育環境についての情報もない。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

現在の生育状況については情報が得られていない。詳細な調査を行うことが望まれる。

【関連文献】

岩槻邦男，1992。

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による



(執筆: 海老原淳)

サトメシダ

Athyrium deltoideifrons

イワデンド科

伊豆諸島

DD

環境省

【形態・生態】

夏緑性シダ。根茎は塊状。冷温帯の林縁などやや明るい場所に多く生育する。ヤマイヌワラビとの雑種(オオサトメシダ)を頻繁に形成することが知られているが、今のところ伊豆諸島からは報告がない。葉身は長さ 25 ～ 70cm。

【分布の概要】

伊豆諸島、北海道、本州、四国、九州；朝鮮半島、中国

【伊豆諸島における生育環境】

旧火口内の空中湿度の高い環境で、地上に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

過去に生育が確認された地点は保護地区のため大きな脅威はなく、現存する可能性は高いと思われるが、詳細な調査を行うことが望まれる。

【関連文献】

倉田悟・中池敏之，1990；岩槻邦男，1992。

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による



(執筆: 海老原淳)

ホソバインヌワラビ

Athyrium iseanum

イワデンド科

伊豆諸島

DD

環境省

【形態・生態】

夏緑性シダ。根茎は塊状で、やや湿った林床に生育する。葉身の長さは 50cm を超えることもある。本属にしては珍しく葉身に無性芽をつける性質がある。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州、四国、九州、南西諸島（屋久島）

【伊豆諸島における生育環境】

空中湿度の高い環境で、林床に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

伊豆諸島では元々保護地区の 1 箇所のみ知られ、個体数は少ない。近年の確実な確認情報がなく、現在の生育状況を確認することが望まれる。

【関連文献】

倉田悟・中池敏之, 1990; 岩槻邦男, 1992.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による



© 寺尾博

(執筆者: 海老原淳)

ツクシイヌワラビ ※備考 (p. 213)

Athyrium kuratae

イワデンド科

伊豆諸島

CR

環境省

【形態・生態】

常緑性シダ。根茎は塊状で、やや湿った林床に生育する。古くはアリスンヌワラビの名で呼ばれることがあった。葉身は長さ 30 ～ 50cm。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州、四国、九州、南西諸島（屋久島）; 中国

【伊豆諸島における生育環境】

やや湿った林床に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

人間による採取の可能性は低い、ノヤギによる被食に注意することが望ましい。

【関連文献】

Serizawa, S., 1970; 岩槻邦男, 1992.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による



© 寺尾博

(執筆者: 海老原淳)

ヤマイヌワラビ

Athyrium vidalii

イワデンド科

伊豆諸島

CR

環境省

【形態・生態】

夏緑性シダ。根茎は塊状で、林床に生育する。葉身は長さ 20 ～ 50cm。

【分布の概要】

伊豆諸島、北海道、本州、四国、九州、南西諸島（屋久島）；東アジア

【伊豆諸島における生育環境】

空中湿度の高い環境で林床に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

全国的に見れば希少な種ではなく、園芸目的の採取の可能性も低い、もともと伊豆諸島には個体数が少ないため、継続的な状況把握が必要である。また、ノヤギによる被食についても注意することが望ましい。

【関連文献】

倉田 悟・中池敏之, 1990; 岩槻邦男, 1992.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
1	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

D



© 寺尾博

(執筆: 海老原淳)

ヒロハインワラビ

Athyrium wardii

イワデンド科

伊豆諸島

CR

環境省

【形態・生態】

夏緑性シダ。根茎は塊状で、林床に生育する。葉身は長さ 20 ～ 35cm。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州、四国、九州；朝鮮半島、中国

【伊豆諸島における生育環境】

伊豆諸島での生育状況についての情報は無いが、通常は林床に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

全国的に見れば希少な種ではなく、園芸目的の採取の可能性も低い、もともと伊豆諸島には個体数が少ないため、継続的な状況把握を行うことが望ましい。

【関連文献】

岩槻邦男, 1992.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
1	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

D



© 七島花の会

(執筆: 海老原淳)

ハクモウイノデ

Deparia pycnosora var. *albosquamata*

イワデンド科

伊豆諸島

CR

環境省

【形態・生態】

夏緑性シダ。林床生で、根茎は直立する。葉身の長さは 65cm に達する。日本産広義ミヤマシケシダに含まれる 3 変種のうちの 1 つ。

【分布の概要】

伊豆諸島、北海道、本州、四国、九州

【伊豆諸島における生育環境】

不明である。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

伊豆諸島産の標本はこれまで確認されておらず、分布を再確認する必要がある。

【関連文献】

岩槻邦男, 1992.



(執筆: 海老原淳)

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
1	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

D

ヒロハノコギリシダ ※備考 (p. 213)

Diplazium dilatatum

イワデンド科

伊豆諸島

CR

環境省

【形態・生態】

常緑性シダ。根茎は短く這う。葉身は長さ 1m に達する。常緑樹林の林床などに生育する。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州、四国、九州、南西諸島; 東アジア、東南アジア、南太平洋

【伊豆諸島における生育環境】

林床に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

倉田・中池 (1997) で八丈島から新分布として報告された標本は単羽状の貧弱な個体であったが、近年では写真のような大型の個体も確認されており、自生地の状況は安定しているようである。個体数が少ないと考えられるため、継続的な状況把握を行うことが望ましい。

【関連文献】

岩槻邦男, 1992; 倉田悟・中池敏之, 1997.



(執筆: 海老原淳)

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による

キンモウワラビ

Hypodematium crenatum subsp. *fauriei*

イワデンダ科

伊豆諸島

DD

環境省

VU

【形態・生態】

夏緑性シダ。根茎は匍匐する。葉身の長さは 50cm を超えることもある。石灰岩地で岩の隙間などに生育する。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州、四国（高知）、九州

【伊豆諸島における生育環境】

石灰岩地に特異的に生育する種である。八丈島に記録があるとされるが、石灰岩地が存在しないため、誤認の可能性が高い。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

分布を再確認する必要がある。

【関連文献】

岩槻邦男, 1992.



(執筆: 海老原淳)

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による

スジヒトツバ

Cheiropleuria integrifolia

スジヒトツバ科

伊豆諸島

EN

環境省

【形態・生態】

常緑性シダ。根茎は匍匐する。林下のやや乾いた崖に着生することが多い。葉身の長さは最大 15cm 程度。以前は東南アジア産の *C. bicuspidata* に含まれていたが、葉があまり切れ込まないことや遺伝子情報などを指標に別種とされるようになった。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州、四国、九州、南西諸島；台湾、中国

【伊豆諸島における生育環境】

やや乾いた崖に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

分布の北限にあたり、もともと稀である。道路の整備などに伴って自生地が消失しないよう配慮することが望ましい。

【関連文献】

岩槻邦男, 1992.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	1	0	1	0	1

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	1	0	0

判定基準

ACD



© 七島花の会

(執筆: 海老原淳)

タカノハウラボシ

Crypsinus engleri

ウラボシ科

伊豆諸島

CR

環境省

【形態・生態】

常緑性シダ。根茎は長く匍匐し、林下の崖などに着生する。葉身は長さ10～30cm。ミツデウラボシの切れ込まない型と紛らわしいが、葉が最基部ではなく中央付近で最も幅広になる点などで区別できる。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州、四国、九州、南西諸島（屋久島）；済州島、台湾

【伊豆諸島における生育環境】

林下の崖などに着生する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

伊豆諸島での自生地がもともと局限されており、継続的な状況確認が必要である。

【関連文献】

岩槻邦男, 1992.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
1	0	0	0	0	1

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

D



(執筆: 海老原淳)

ヒメタカノハウラボシ

Crypsinus yakushimensis

ウラボシ科

伊豆諸島

DD

環境省

【形態・生態】

常緑性シダ。根茎は匍匐し、溪流沿いの岩に着生することが多い。葉身は長さ5～20cm。タカノハウラボシより小型で、孢子嚢群のつく部分で葉が表側に向かって凹むことで区別ができる。

【分布の概要】

伊豆諸島、南西諸島；台湾

【伊豆諸島における生育環境】

南西諸島では、本種は溪流沿いの岩に着生するが、伊豆諸島には生育適地が乏しく、タカノハウラボシの誤認の可能性も考えられる。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

里見・丸山(1962)は御蔵島産を報告しているが、標本で確認することはできなかった。分布を再確認する必要がある。

【関連文献】

里見信生・丸山尚敏, 1962; 岩槻邦男, 1992.

「現存する株数」別の情報数

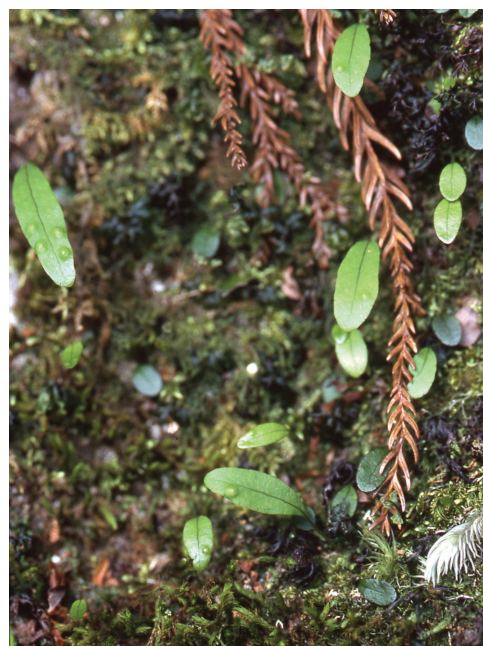
～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による



(執筆: 海老原淳)

ハチジョウウラボシ

Lepisorus hachijoensis

ウラボシ科

伊豆諸島

NT

環境省

【形態・生態】

常緑性シダ。広域分布するヒメノキシノブの近縁種であるが、全体としてより大型になり、葉身の長さは 20cm に達する。また、葉をつける間隔が広く、根茎も太い。

【分布の概要】

伊豆諸島

【伊豆諸島における生育環境】

やや標高の高い地域で、樹幹に着生する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地、個体数ともに多く、すぐに絶滅が危惧される状態ではない。ただし、姉妹種であるヒメノキシノブとの関係については詳細な研究が待たれる。

【関連文献】

岩槻邦男, 1992.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	1	0	1	2	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	2	0	0

判定基準

協議による



(執筆: 海老原淳)

ヒメサジラン ※備考 (p. 213)

Loxogramme grammitoides

ウラボシ科

伊豆諸島

CR

環境省

【形態・生態】

常緑性シダ。根茎は長く匍匐する。葉身は長さ 2～12cm。沢沿いなどの空中湿度の高い環境で、苔が生育する岩に着生する。

【分布の概要】

伊豆諸島、北海道、本州、四国、九州、南西諸島(屋久島); 東アジア

【伊豆諸島における生育環境】

伊豆諸島における生育環境は情報がない。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

1930 年代に採集された標本が存在し、里見・丸山(1962)も報告しているが、現状については確認されておらず、詳細な調査を行うことが望まれる。

【関連文献】

岩槻邦男, 1992.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による



(執筆: 海老原淳)

イワヤナギシダ

Loxogramme salicifolia

ウラボシ科

伊豆諸島

CR

環境省

【形態・生態】

常緑性シダ。根茎は長く匍匐する。葉身は長さ 15 ～ 20cm。やや乾いた樹幹に着生する。サジランに似るが、本種は葉柄が紫褐色に着色しないことで区別できる。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州、四国、九州、南西諸島（沖縄本島以北）；アジアの亜熱帯から温帯

【伊豆諸島における生育環境】

樹幹に着生する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

樹木の伐採により影響を受ける可能性がある。

【関連文献】

岩槻邦男，1992.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
1	2	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

D



© 寺尾博

(執筆: 海老原淳)

ビロードシダ ※備考 (p. 213)

Pyrrosia linearifolia

ウラボシ科

伊豆諸島

CR

環境省

【形態・生態】

常緑性シダ。やや日当たりの良い乾いた岩の上に着生し、根茎は長く匍匐する。葉身は長さ 2 ～ 15cm。

【分布の概要】

伊豆諸島、北海道、本州、四国、九州、南西諸島（沖縄本島、渡名喜島）；東アジア

【伊豆諸島における生育環境】

1960 年代に大島で採集された標本が存在するが、現存は確認できていない。伊豆諸島での生育環境についての情報は無い。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

現在の生育状況については情報が得られていない。詳細な調査を行うことが望まれる。

【関連文献】

岩槻邦男，1992.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による



(執筆: 海老原淳)

ヒロハヒメウラボシ

Grammitis nipponica

ヒメウラボシ科

伊豆諸島

CR

環境省

CR

【形態・生態】

常緑性シダ。空中湿度の高い環境で、岩などに着生する。根茎は短く、葉を狭い間隔でつける。葉身の長さ(1.5～)2.0～3.5(～4.5)cm。以前は、伊豆諸島、本州産のものはナガバコウラボシと呼ばれていたこともある。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州、四国、九州、南西諸島(屋久島)

【伊豆諸島における生育環境】

雲霧帯で岩に着生するが、極めて稀な植物である。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地、個体数が限られた種であるため、園芸目的の採取、生育環境の乾燥化に留意する必要がある。全国的に見ても稀な種であったが、近年の情報を総合するとさらに産地が減少しているようであり、伊豆諸島では厳重な保護を図ることが望まれる。

【関連文献】

岩槻邦男, 1992.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
1	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	1	0	0	0	0

判定基準

E+ACD



© 寺尾博

(執筆: 海老原淳)

デンジソウ

Marsilea quadrifolia

デンジソウ科

伊豆諸島

DD

環境省

VU

【形態・生態】

夏緑性の水生シダ。浮葉性または抽水性で水田やため池などに生育する。葉は4小葉から成り、一つの小葉の長さは1～2cm。近縁種にナンゴクデンジソウがあり、葉の基部から生じる孢子嚢果の形態で区別されるが、伊豆諸島からの報告はない。

【分布の概要】

伊豆諸島、北海道、本州、四国、九州、南西諸島(奄美大島); 東アジア、インド、ヨーロッパ

【伊豆諸島における生育環境】

1950年代に八丈島で採集された標本が存在する。生育環境は記録されていない。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

近年は確認されておらず、水田における農薬の使用もあるため、再発見の可能性は低いと考えられる。

【関連文献】

倉田悟・中池敏之, 1987; 岩槻邦男, 1992.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による



(執筆: 海老原淳)

オオシマハイネズ

Juniperus conferta var. *maritima*

ヒノキ科

伊豆諸島

NT

環境省

【形態・生態】

匍匐性の常緑低木。樹形はハイネズに似るが、葉先がやや鈍く、葉上面の溝は浅く、溝中の白色気孔帯は幅広く、中央に隆起部があって2条になる。葉先が鋭くとがるハイネズと葉先が鈍くて触っても痛みを感じないオキナワハイネズの間ぐらいの形質を持つと考えられているが、伊豆諸島では葉の形質の変異がかなり幅広い。花期は3～4月。雌雄異株。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州（房総半島から紀伊半島の太平洋沿岸）

【伊豆諸島における生育環境】

海岸で潮を直接かぶらない岩場や礫地、それと同じような環境である山頂の岩場や礫地にも生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

本種自体は旺盛な繁殖力があるが、今後、港湾整備や海岸沿いの道路整備などの開発は生存の脅威となりうる。

【関連文献】

神奈川県植物誌調査会（編），2001；七島花の会 神津島，2011a。

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	3	2	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	4	0	0

判定基準

協議による



(執筆：八木正徳)

ヤマトキホコリ

Elatostema laetevirens

イラクサ科

伊豆諸島

CR

環境省

【形態・生態】

多年草。茎は高さ20～40cm。葉はゆがんだ長楕円形。花期は8～10月。葉腋に淡緑色の極めて小さい花をつける。雌雄同株で栄養繁殖は行わず、花序は球形で柄がなく、雄花と雌花が混じる。そう果は長楕円形で長さ約1mm。ウワバミソウとよく似ているが、本種は葉の先が長い尾状にならず、花期が遅いので区別がつく。

【分布の概要】

伊豆諸島、北海道、本州、四国、九州

【伊豆諸島における生育環境】

樹林内の半日陰地や林縁に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

林道の造成や過度な草刈りなどの管理により自生地が消失する可能性があるため、開発や管理を実施する際には留意することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら（編），1982b。

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	1	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	1	0	0

判定基準

E+ACD



(執筆：奥田重俊)

キミズ

Pellionia scabra

イラクサ科

伊豆諸島

VU

環境省

【形態・生態】

多年草。茎の基部が木質化する。茎は高さ 20～40cm、枝は斜上し、やや細く灰色で短毛が密生する。葉はゆがんだ卵状披針形、柄がなく、先は尾状にとがり、表面に粗い毛がまばらに生え、裏面はやや淡緑色で脈上に微毛がある。花期は 3～5 月。淡緑色、雌雄同株で雄花序は集散状で短い柄があり、球状に集まり、柄はごく短い。雄花被片は 5 個、雄しべが 5 個ある。雌花被片は 5 個。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州（関東以西）、四国、九州、南西諸島；中国

【伊豆諸島における生育環境】

常緑樹林内に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地を現状のまま保全するために、競合する植物を刈取りにより除去することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら（編），1982b.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	1	1	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	2	0	0

判定基準

E+ACD



© 寺尾博

（執筆：奥田重俊）

ミズ

Pilea hamaoi

イラクサ科

伊豆諸島

DD

環境省

【形態・生態】

一年草。多汁で軟らかい。茎は紫褐色を帯びることが多い。高さは 20～30cm と小型で、葉は対生し、葉表面の主脈に直角の支脈があり、菱状卵形で長さ 2～5cm、鋸歯は 5 対ほどで低い。花期は 7～10 月。葉腋からほとんど無柄の密集した花序をつける。雌雄同株。雌花被片は 3 個のうち 2 個が大きく、花後にそう果を抱く。そう果は広卵形で褐色点がある。

【分布の概要】

伊豆諸島、北海道、本州、四国、九州；朝鮮半島、中国

【伊豆諸島における生育環境】

山地の小河川などの水辺に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

林道の造成や過度な草刈りなどの管理により自生地が消失する可能性があるため、開発や管理を実施する際には留意することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら（編），1982b.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による



（執筆：奥田重俊・池田博）

ヤマミズ ※備考 (p. 213)

Pilea japonica

イラクサ科

伊豆諸島

CR

環境省

【形態・生態】

一年草。全体に毛がない。茎は高さ 10～25cm、軟弱な茎はやや褐色を帯びる。葉の表面は主脈に直角の支脈がなく、葉身は広卵形から卵円形で基部はくさび形、縁に 2～6 対の鋸歯がある。柄は細く、長さは葉身とあまり変わらない。花期は 9～10 月。葉腋に花をつける。雌雄花は混生し、淡緑色の花をつける。雄花被片は 4 個、雄しべは 4 個ある。雌花被片は 5 個でそのうち 4 個は同じ大きさであるが、1 個が短い。そう果はレンズ形で褐色点がない。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州（宮城以南）、四国、九州；朝鮮半島、中国

【伊豆諸島における生育環境】

山地の湿った林床や溪流沿いに生育し、群生する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

林道の造成や過度な草刈りなどの管理により自生地が消失する可能性があるため、開発や管理を実施する際には留意することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら（編），1982b.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による



（執筆者：奥田重俊）

ホソバイヌタデ

Persicaria erectominor var. *trigonocarpa*

タデ科

伊豆諸島

EN

環境省

NT

【形態・生態】

一年草。茎の下部は地面を這い、節から根を出す。上部は直立して少数の枝を分け、無毛で、高さ 20～45cm になる。葉は短い柄があり、広線形から長抜針形。葉の両面、特に縁辺に近い脈上に短伏毛がある。托葉鞘は筒状、外面に伏毛があり、短い縁毛がある。花期は 5～10 月。総状花序は円柱形で、密に花をつける。萼は 5 深裂し、淡紅色。雄しべは 5～7 個。そう果は広卵形、三稜形、長さ約 2mm、黒色で光沢がある。

【分布の概要】

伊豆諸島、北海道、本州、四国、九州；朝鮮半島、中国（北部、東北部）、ロシア（ウスリー）

【伊豆諸島における生育環境】

日当たりの良い湿地に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地を現状のまま保全するために、水質を保全することや、競合する植物を刈取りにより除去することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら（編），1982b.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	1	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

D



（執筆者：奥田重俊）

ヤナギヌカボ

Persicaria foliosa var. *paludicola*

タデ科

伊豆諸島

DD

環境省

VU

【形態・生態】

一年草。茎は高さ 30～60cm。葉は長披針形から長線形、長さ 3～9cm、幅 2～9mm、両面の脈上、縁辺などに短伏毛があり、裏面には腺点がある。基部はほとんど柄がないか、極めて短い柄があり、托葉鞘は筒状、長さ 5～10mm、やや同長の縁毛がある。花期は 9～10 月。総状花序は細く、まばらに花をつけ、直立する。そう果はレンズ形か、または三稜形、黒色で光沢がある。

【分布の概要】

伊豆諸島、北海道、本州、九州

【伊豆諸島における生育環境】

貧栄養の湿地に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地を現状のまま保全するために、競合する植物を刈取りにより除去することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら (編), 1982b.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による



(執筆: 奥田重俊・池田博)

タニソバ ※備考 (p. 213)

Persicaria nepalensis

タデ科

伊豆諸島

CR

環境省

【形態・生態】

一年草。茎は赤味を帯びる。よく枝を分けて、高さ 10～50cm になる。葉には柄があり、形は卵形、先は鋭尖形、基部はくさび形で葉柄に沿って流れる。裏面には腺点がある。葉柄には広い翼があつて、基部は茎を抱く。花期は 7～10 月。花序は頂生か腋生、頭状に花が 10～15 集まる。萼は広い筒状で緑色、白色または紅色。雄しべは 6～7 個。そう果はレンズ形、表面に細かい突点があり、黒色で光沢はない。

【分布の概要】

伊豆諸島、北海道、本州、四国、九州；朝鮮半島、中国から北アフリカ

【伊豆諸島における生育環境】

林道沿いの湿地に生育し、群生する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

林道の造成や過度な草刈りなどの管理により自生地が消失する可能性があるため、開発や湿地の管理を実施する際には留意することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら (編), 1982b.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による



(執筆: 奥田重俊)

フシゲロ

Silene firma

ナデシコ科

伊豆諸島

VU

環境省

【形態・生態】

越年草。茎は無毛で高さ 30 ～ 100cm になり、茎の節が暗紫色を帯びる。葉は披針形から卵状披針形、縁に毛がある。花期は 6 ～ 9 月。茎頂や葉腋に小さな花をつけ、花柄の長さは不揃いで、1 ～ 3cm。花弁の基部は白色で、2 裂する。さく果は卵形、長さ 7 ～ 8mm、萼よりやや長い。種子は腎形で、とがった突起がある。

【分布の概要】

伊豆諸島、北海道、本州、四国、九州；朝鮮半島、中国（東北部）、ロシア（アムール、ウスリー）

【伊豆諸島における生育環境】

日当たりの良い草地や斜面に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

草地などの開発などから自生地を保全することに加え、競合する植物を刈取りにより除去することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら（編），1982b.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	1	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

D

No image

（執筆者：奥田重俊）

ウラジロアカザ

Chenopodium glaucum

アカザ科

伊豆諸島

DD

環境省

【形態・生態】

一年草。耐塩性がある。茎は斜上し、高さ 10 ～ 35cm になる。葉は卵状長楕円形から披針形、先は鈍形で基部はくさび形、縁に波状の歯牙があり、質厚く、表面は深緑色、裏面は白粉粒が多く、灰白色になる。花期は 6 ～ 9 月。穂状花序は頂生か腋生し、よく枝を分け、両性花と雌花を混生する。萼は花時には肉質で、果時には膜質となる。種子は赤褐色または黒色の円形で、平たく、光沢がある。

【分布の概要】

伊豆諸島、北海道、本州、四国、九州；ユーラシア

【伊豆諸島における生育環境】

海岸付近の裸地や路傍、荒地などに生える。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

土地の改変から自生地を保全することに加え、競合する植物を刈取りにより除去することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら（編），1982b.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による



（執筆者：奥田重俊）

カワラアカザ

Chenopodium virgatum

アカザ科

伊豆諸島

DD

環境省

【形態・生態】

一年草。高さ 30～60cm。茎は赤みがかかることが多く、直立する。枝は上に伸び、葉は互生し、広線形から長卵形で細く、全縁、縁が厚くなって縁取られる。花期は 7～10 月。花序は細長い。種子は一部が深く切れ込んで嘴状となり、長さ 1.3～1.5mm、幅 0.9～1.5mm。河原や海岸の砂地に生育する。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州、四国、九州、南西諸島；朝鮮半島、中国、ロシア（ウスリー）

【伊豆諸島における生育環境】

不明である。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

現在の生育状況については情報が得られていない。分布や生育の状況を確認することが望まれる。

【関連文献】

佐竹義輔ら（編），1982b.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による



© 寺尾博

(執筆: 加藤英寿)

オカヒジキ

※備考 (p. 213)

Salsola komarovii

アカザ科

伊豆諸島

CR

環境省

【形態・生態】

一年草。茎や葉は無毛。茎はよく枝を分けて広がり、高さ 10～40cm になる。葉は肉質、円柱形で緑色、先はとげ状になる。花期は 7～10 月。花は葉腋に普通 1 個、時に 1～2 個の不開花も出る。小苞は 2 個。萼裂片は 5 個で、互いに接して杯状となり、果時には上部が急に内側に曲がって、平たい表面となる。胞果は狭倒円錐形で径約 2mm。

【分布の概要】

伊豆諸島、北海道、本州、四国、九州、南西諸島；朝鮮半島、中国、ロシア（ウスリー、サハリン）

【伊豆諸島における生育環境】

海岸砂浜の、しばしば海水の飛沫を浴びる立地に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地となる海岸の砂浜を保全することに加え、競合する植物を刈取りにより除去することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら（編），1982b.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による



© 七島花の会

(執筆: 奥田重俊)

フサザクラ ※備考 (p. 213)

Euptelea polyandra

フサザクラ科

伊豆諸島

CR

環境省

【形態・生態】

落葉高木。高さ3～5m、ときに20mに達する。樹皮は褐色で横長の皮目が目立つ。葉は長枝には互生し、短枝では叢生状になる。葉柄は長さ3～7cm、やや細く、はじめ上面に毛があり、下面は淡緑、脈腋に少し毛がある。葉身は広卵形、基部は円形ないし切形で粗い鋸歯がある。花期は3～5月。花は短枝に5～12個が束生し、小型で暗赤色、普通は両性。萼や花弁はない。雄しべは十数本あって垂れ下がり、葯は暗赤色。翼果はゆがんだ倒卵形。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州、四国、九州

【伊豆諸島における生育環境】

沢筋などの崩壊しやすい斜面や谷筋にやや稀に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

樹林の伐採や開発などにより自生地が消失しないよう配慮することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら(編), 1989a.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による



(執筆: 奥田重俊)

ヒメウズ

Aquilegia adoxoides

キンポウゲ科

伊豆諸島

VU

環境省

【形態・生態】

多年草。塊茎の先に数個の根出葉と1～数本の花茎をつける。茎および葉の下面に微かに細毛があり、茎は少し分岐する。葉は長い柄のある1回3出複葉で、葉身は円形、小葉は2～3中裂から深裂し、裏面はやや帯白色。花茎は高さ10～30cm、先は分枝する。花期は3～5月。花は白くて紅色を帯び、枝の先に下向きに1個つく。萼片は長楕円形。花弁は長さ2.5mm。袋果は長さ5～6mmで、2～4個が上向きにつく。種子は卵形で黒色。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州(関東以西)、四国、九州; 朝鮮半島(南部)、中国

【伊豆諸島における生育環境】

人里近くの日当たりの良い林縁に小群落となって生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

林道の造成や樹林の伐採などにより自生地が消失しないよう配慮することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら(編), 1982b.

「現存する株数」別の情報数

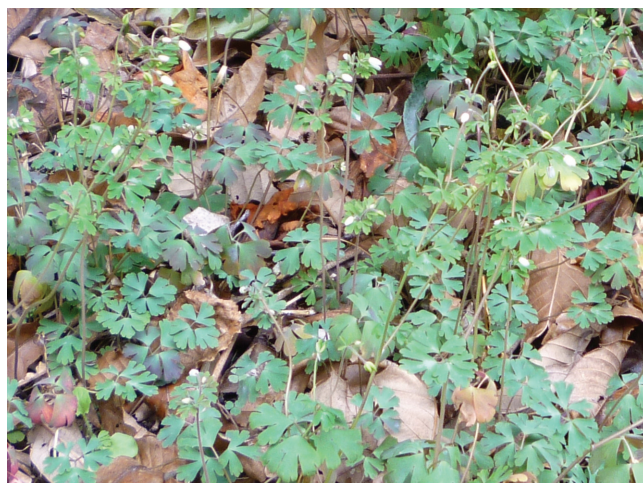
～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	1	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

D



(執筆: 奥田重俊)

イヌショウマ

Cimicifuga japonica

キンポウゲ科

伊豆諸島

DD

環境省

【形態・生態】

多年草。高さ 60～80cm。根出葉は 1～2 回 3 出複葉で、小葉はやや硬く洋紙質、円心形で長さ 6～10cm、裂片には不揃いな鋭い鋸歯がある。葉の両面の脈上に短毛がある。茎葉は退化して苞状になる。花期は 8～9 月。白色の花を穂状につける。花弁と萼片は長さ 4～5mm と小さく、早く落ちるため、雄しべが目立つことが多い。雌しべは 1～2 個。果実は袋果で長さ 5～6mm。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州（関東から近畿）

【伊豆諸島における生育環境】

不明である。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

現在の生育状況については情報が得られていない。分布や生育の状況を確認することが望まれる。

【関連文献】

佐竹義輔ら（編），1982b.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による



（執筆：加藤英寿）

ボタンヅル

※備考 (p. 213)

Clematis apiifolia

キンポウゲ科

伊豆諸島

CR

環境省

【形態・生態】

つる性の半低木。葉は 1 回 3 出複葉、小葉はやや膜質で卵形、先は鋭くとがり、欠刻状鋸歯がある。花期は 8～9 月。上部の腋および葉腋より、3 出集散状の花序を出す。花は多数で上向きに開き、径 1.5～2cm。萼片は 4 個、長楕円形で先は鈍く、白色、外面に灰白色の短毛がある。そう果は卵形、長さ約 4mm、開出した細毛がある。花柱には長い白毛がある。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州、四国、九州；朝鮮半島、中国

【伊豆諸島における生育環境】

林縁や林道沿いに生え、マント群落を形成する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

林道の造成や樹木の伐採などにより自生地が消失しないよう配慮することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら（編），1982b.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による



（執筆：奥田重俊）

ハンショウヅル

Clematis japonica

キンポウゲ科

伊豆諸島

DD

環境省

【形態・生態】

つる性の半低木。葉は1回3出複葉で、小葉は卵形、鋭頭で鋸歯があり、小葉柄はごく短い。花期は5～6月。花は前年に伸びた茎の葉腋に1個ずつつく。花柄は長さ6～12cm、中央に1対の小型の小苞がつく。花は鐘形で下を向き、長さ2.5～3cm。萼片は4個、先はとがり、紫褐色で縁に白い細毛が密生する。花糸には毛がある。そう果は長卵形、長さ約6mm、無毛またはわずかに毛を散生する。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州、九州

【伊豆諸島における生育環境】

明るい林内や林縁に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

林道の造成や樹林の伐採などにより自生地が消失しないよう配慮することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら(編), 1982b.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による



(執筆者: 奥田重俊)

クサボタン

Clematis stans

キンポウゲ科

伊豆諸島

VU

環境省

【形態・生態】

多年草。高さ約1m。葉は対生し、複葉は3枚で鋸歯が大きく、ボタンの葉に似る。花期は8～10月。花に花弁はなく、筒状の萼片の先端が反り返る。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州、四国、九州

【伊豆諸島における生育環境】

林縁や、やや明るい樹林内に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

道路工事などによる林縁の改変が脅威となる。

【関連文献】

佐竹義輔ら(編), 1982b; 教育委員会『フィールド図鑑—御蔵島の植物・動物』制作部会, 2007.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
4	1	0	1	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

D



(執筆者: 上條隆志)

シロバナハンショウヅル ※備考 (p. 213)

Clematis williamsii

キンポウゲ科

伊豆諸島

CR

環境省

【形態・生態】

つる性の半低木。葉は1回3出複葉、小葉は卵形または長楕円形で3中裂し、少数の鋸歯があり、葉の裏に軟毛が多い。前年の腋芽から伸びた新枝の基部の葉腋より花柄を出し、1個の広鐘形の花を下向きにつける。花期は4～6月。花柄の中ほどに1対の小苞がある。萼片は4個、広楕円形～卵形長さ1.5～2cm、白色で質薄く、外面に軟らかい長毛がある。雄しべは無毛。花糸は無毛またはやや無毛。そう果は卵形、長さ4～5mm、羽状毛あり、淡黄褐色。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州（関東南部から近畿南部の太平洋沿岸）、四国、九州

【伊豆諸島における生育環境】

明るい林内や林縁に生育し、所によってマント群落を形成する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

林道の造成や樹林の伐採などにより自生地が消失しないよう配慮することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら（編），1982b.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による



（執筆：奥田重俊）

ノカラマツ

Thalictrum simplex var. *brevipes*

キンポウゲ科

伊豆諸島

DD

環境省

VU

【形態・生態】

多年草。全体は無毛で、茎は高さ60～120cm、鋭い著しい稜がある。茎葉は1～2回3出複葉し、鋭頭または鋭尖頭、時に上縁が2～3浅裂し、明らかに長さは幅より大きい。花期は6～8月。花序は細い円錐状。花は黄緑色、径約1cm。萼片は4～5個、楕円形で早落性。そう果は2～6個、紡錘形で長さ約5mm、8～10本の稜があり、柄はない。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州（東南北部以南）、四国、九州；朝鮮半島（南部）、中国（中北部、東北部）

【伊豆諸島における生育環境】

日当たりの良い湿地に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

競合する植物を草刈りなどにより管理することや、自生地の改変に留意することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら（編），1982b.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による



（執筆：奥田重俊・池田博）